



OVERSEAS

海外事情

Republic of the Union of Myanmar



— ミャンマー連邦共和国 —

ゴールドとカーキ ～ミャンマーへの想い～



川原 伸朗 KAWAHARA Nobuo
株式会社オリエンタルコンサルタンツ/海外事業部/主監

大河の国

ヤンゴンへ近づく飛行機の窓から、いつも広大なデルタ地帯が見える。水面の色はカーキだ。蛇行する川が随所にあり、所々に小さな集落が見える。果てしないデルタ地帯の中にでも、人は住めるものだと感じる。どこまでが陸地でどこまでが河川かと考える私の常識がここでは通用しないのかもしれない。

私がミャンマーと出会ったのは、さほど遠い昔ではない。高々5年ほど

前の秋からである。都市プランナーとして都市開発分野の業務準備にヤンゴンを訪問する機会を得たのが始まりだ。

その頃ミャンマーでは、長い鎖国的経済が終わり、開放路線に大きな期待が高まっていた。都市開発の分野でもインフラ整備と相まって「仕事は山積み」の感があった。しかし、来てみれば、悠久の年月が大陸的文化・風習とともに流れている感覚を味わった。政治は変わったの

だろうが、人々の生活や営みは、急かされることなく淡々と流れていた。

多民族と異種混合

ミャンマーは多民族で構成されている。現在ではビルマ族が大半を占めるが、彼らとて、昔からミャンマーで勢力を張っていたわけではない。現在の中国雲南省あたりから移動してきた。この国には、大きくは8つ、細かくは135の民族があるという。したがって、中央政府は国を平穩に保つため、それら多様な民族への政治的な配慮を欠かすことは無い。

例えば、2018年に訪れたカチン州のミッチーナやワイマウという地方都市のまちづくりやインフラ整備は、ミャンマー政府にとって多民族国家の発展を促す重要な施策と位置づけられていた。

カチン州はミャンマーの最北部にある。入境にはパスポートが必要だ。ここには、ミャンマーの国土を南北に流れるエーヤワディー川（イラワジ川）がある。この大河は地理的に国土を2分している。その源は、東南アジア最高峰カカボラジ山（5,881m）である。ヒマラヤの雪解



アンダマン海へ繋がる広大なデルタ地帯



奥に見えるシュエダゴン・パゴダを中心とするヤンゴンの街並み

け水が、この川からほぼ南に下り、マンダレーを経てアンダマン海に注ぐ。デルタ地帯でヤンゴンを流れるヤンゴン川にもつながっている。そして、空からいつも見えるあのカーキ色のデルタ地帯へと繋がっているのだ。民は同じ流れを掬ふ。

エーヤワディー川に沿って、ミッチーナやワイマウという都市がつくられている。その枢要部には仏教寺院の他、美しいヒンズー教寺院もある。カチン州（カチン族）ではキリスト教が盛んである。ここはミャンマーの北の端ではあるが、多様な文化が交錯し共存している。

夕暮れ時、静かなエーヤワディー川を散策していると、ヒンズー教寺院前の広場から大音響のリズミカルな音楽と女性の掛け声が聞こえてきた。夜の帳を開け放つ明りを頼り

に近づいてみると、中華系の人々が、体力づくりの体操と言うべきか、一種のダンスに励んでいる姿を目にした。いつかラオスのヴィエンチャンで、メコン川の河川敷に同じ光景を見た覚えがある。そこで味わった中華系の人々の鼓動を、さらに中国に近いこの小都市でも強く感じた。

ミャンマーのアイデンティティ

さて、ヤンゴンは元々、ダゴンという小さな漁村で、現在シュエダゴン・パゴダ（仏塔）が鎮座する辺りが、その発祥とされている。ミャンマーで大勢を占めるビルマ族の村ではなく、当時、デルタ地帯を支配していたモン族の村だった。

一方、シュエダゴン・パゴダは考古学が示すところによれば、6～10世紀の間に建立されたようだ。14世

紀頃、ビルマ族の王朝がモン族を放逐してこの地を支配するようになり、18世紀中頃、さらに別の王朝がダゴンを征服した際にヤンゴンと改名された。19世紀に英国がヤンゴンを支配するに至るまでの華やかな王朝文化は、僅かにカンドー湖の水上レストランに見ることができる。しかし残念ながら、これ以外にその栄華を偲ぶものは、今のヤンゴンには何も見当たらない。

幾度かの激しい戦争の後、英国は地の利を生かした商都の建設にとりかかった。そして、1852年にヤンゴンを「ラングーン（戦いの終わりの意味）」に変更した。

英国領ビルマの首都となったラングーンは、英国人による都市計画と道路、鉄道や公園、さらには下水道の整備、そして西洋建築の建設が進められた。日本がまだ江戸時代であった頃、ラングーンは「東の庭園都市」とも呼ばれ、東南アジアにおける先進的かつ豊かな近代都市の一つであった。

時代は下って、ラングーンが再び「ヤンゴン」へと改名されたのは第2次世界大戦後である。英国から独立した後の、第2次ビルマ連邦時代の1989年だ。この時、国名も「ビルマ連邦」から「ミャンマー連邦」へ



エーヤワディー河畔ワイマウの仏教寺院



ミッチーナのヒンズー教寺院前の広場で体操に励む中華系の人々



王朝文化を思わせるヤンゴン・カンドー湖のレストラン



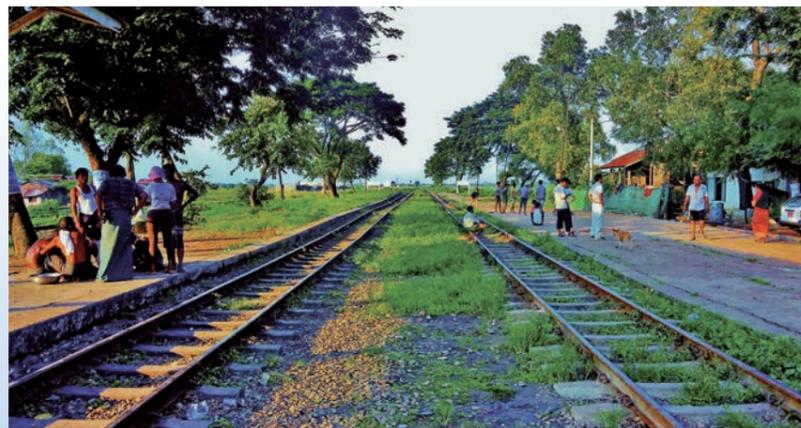
英国統治時代に建てられたヤンゴン中央駅

と改名された。ようやく、彼らが自らの手で国や都市をつくることになったと言えるだろう。

ミャンマーでは2006年の軍政下でヤンゴンから遷都が行われ、首都はネピドーとなっている。遷都によって、多くの政府中枢機関がヤンゴンから約370km北にあるネピドーへ移転した。だが、今もってヤンゴンはミャンマー最大の都市であり続け、経済の中心である。そのため政府機関の幹部職員の多くが、ネピドーとヤンゴンの二重生活を送っている。ネピドーは仕事場ではあるが、生活の拠点はヤンゴンにあり、週末にヤンゴンへ戻り、月曜朝の飛行機でヤンゴンからネピドーへ出勤するというダイナミックな生活をしている。

東の庭園都市・再び

英国統治時代の遺産とも言える都心部の建築群や整ったインフラは、長い独立への歩みの中で、時間が止まったかのように更新されていない。



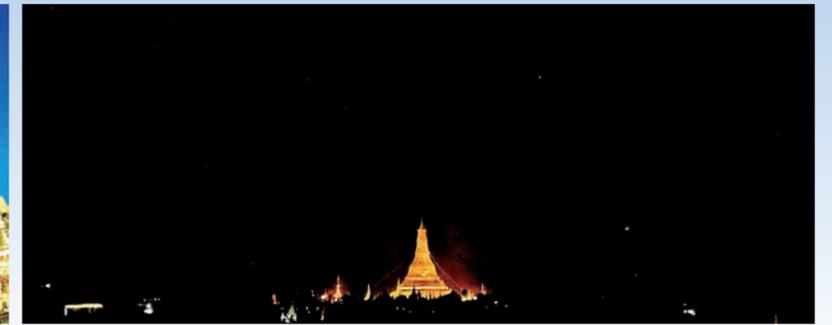
ヤンゴン・マンダレー鉄道のレイ・ダン・カン駅

また、西洋人の都市づくりの思想とこの地に住む人々の理想とするまちの姿には、少なからず異なった考え方があり得る。それは、高層建築よりも塙で囲まれた広大な敷地に立つ建物を理想としていることである。住宅に例えるならば「高層コンドミニアム」ではなく「森に囲まれた低層の戸建て住宅」が、彼らの根本的空間嗜好ではないだろうか。

2011年以降、ヤンゴンの街中には近代的な高層ビルが、相当な勢いで建設されてきた。そして、これは今後も続いていくだろう。しかし、ミャンマーの人々が真に求めているのは「森と共存する都市」のように思えてならない。これからのスマートシティ



ヤンゴンのシュエダゴン・パゴダ



ヤンゴンのシュエダゴン・パゴダが放つ黄金の光

の時代に、ミャンマーならではの都市の有り様を構築できるのなら、再び「東の庭園都市」として、先進的なまちが形作られていくに違いない。

なぜならば、ヤンゴンには土地資源が有り余るほど存在しているからだ。土地の単位面積あたりの利用価値を最大限に高めようとする香港やシンガポールのような都市のつくり方を求める必然性は低い。

ヤンゴンでは、環境にやさしいサステイナブル、エコロジカルで高効率な都市やまちが、IoTやこれから生まれる新しい技術を使って実現されていくのではないだろうか。

輝くパゴダ

ヤンゴンが英国の支配下にあった際に、シュエダゴン・パゴダが要塞になった時期もある。それでも、シュエダゴン・パゴダはこの都市の長い歴史の中で、その中心的な位置にシンボリックに存在し続けてきた。闇夜に浮かび上がる黄金のパゴダの姿は、人々の精神的なよりどころや中心性を象徴し続けている。

この類まれな都市景観における精神性の統一感は何だろう。ヤンゴン市民、あるいはミャンマー国民全体の、多民族の多様な思いが、仏教の象徴性や神格性によってまとめられて来たことの現れではないだろうか。少し無理があるかもしれない



ヤンゴン市民の憩いの場インヤ湖と夕陽

が、そう願いたい。

旧王朝の宮殿は破壊されて無くなり、現代の大統領の館は国民統一の象徴ではなく、パゴダが普遍的に人々の精神性やアイデンティティの統一性を支えていると感じる。

人々の精神的な拠り所としてのパゴダは、まちの中心にいつも置かれている。しかし、近年の西洋型都市開発では往々にして、その重要性が忘れられ、どこにもパゴダが見あたらないものも多くなっている。

ヤンゴンの都市拠点づくりについて現地の建築家ウィン・ミン氏と話した際、パゴダを配置することの重要性を指摘していただいた。いかに、ミャンマーの人々の生活の中で、パゴダが中心的位置に配置されるべき、あるいは敬意を持って所在を与えられるべきか。そのことを私は幸いにも教えられた。

政変後

2021年2月1日に政変が起きた。突然のことで驚いたが、これはこれまでも繰り返されてきたことでミャンマー人にとってはある程度想像の範囲であったのかも知れない。それまで、私の仕事の関係先でも「選挙の結果でどうなるか分からない」という話はよく耳にしていた。ただ、それが意味することが政変であるならば、私の想像を遥かに超えていた。

その後、流血の事態もあり、そして流行り病の影響もあり、多くのプロジェクトは中断又は中止となってしまった。もしかすると、私が出る幕はもう来ないかもしれないが、時間をかけて、ミャンマーの人々が想いを寄せるまちづくりが、これからも着実に進んでいくことを心から望んでいる。